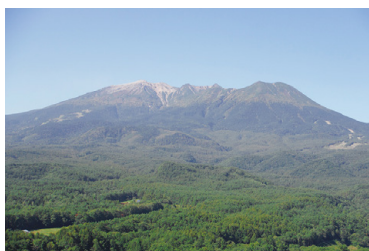


御嶽山の麓には、開田高原マイアスキー場があり、シーズン中は多くのスキーヤーで賑わいます。また事務所近くには「木曽馬の里」があり、数少なくなった木曽

馬の国有林野を管理しています。



雄大な御嶽山

約五、三〇〇村境までの木曽郡木祖ら、松本市、開田村の御嶽山北部から、松本市、

とて有名な旧

は、長野県木曽郡木曽町開田高原に所在し、「木曽馬とそばのふるさと」として有名な旧

森林官 古澤 博

【木曽森林管理署 開田森林事務所】



国有林と言えば現場、現場と言えば森林官！しかし、一般の方には余り馴染みがないと思います。そこで各地にある森林事務所や地域の特徴、森林官の仕事などを紹介していきます。



木曽馬

馬と人が触れあい、多忙な日常生活で忘れかけていた「ふるさと」の景色、風、文化を肌で感じられ、雄大な御嶽山の眺望を楽しみながらゆったりとした時を過ごすことができます。

管内はカラマツの人工林が約八割を占めています。標高が高く、寒風害の恐れがあることや、火山灰を多く含んだ土壌がヒノキの生育に向かず、カラマツ指向になったのではないかと考えられます。急傾斜地が多い開田地区において、カラマツ人工林をどのように施業していくかが今後の課題だと思っています。

現在開田森林事務所は、森林官、行政専門員二名の三名体制で、生産事業・造林事業の監督、

各種調査、境界巡検・巡視等の業務に従事しています。また近年この地区においても、熊の剥皮被害が多く見られるようになったため、リンロンテープによるヒノキ造林木の保護作業に力を入れています。

七月に入ってから開田地区内においても豚コレラに感染した野生イノシシが確認されたため、センサーカメラを活用し生息状況を把握するとともに地元猟友会とも情報交換をしています。

平成から令和へと変わったこの四月に、憧れであった森林官として初めて開田森林事務所に着任してから四ヶ月が過ぎようとしています。前任地の駒ヶ岳森林事務所で地域技術官として六年間勤務した経験はあったものの、環境の違いから希望より不安の方が大きい日々が続きました。しかし、署長や職員の皆さんの協力により、「自分は森林官」という自覚を持つようになりました。特に地元関係や、過去の経緯については、地元の開田出身である行政専門員の二人が

よく知っていることからとても助かっています。今後も地域との連携を図り、雄大な御嶽山のようにどっしりと腰を据え、木曽馬のように辛抱強く職務を遂行し信頼される森林官を目指したいと思います。



開田森林事務所前にて、左が森林官

■未来の担い手へのメッセージ
 森林づくりは長い歳月がかかりますが、自分が携わった事が後世に引き継がれ、とてもやり甲斐のある仕事であると思います。若い職員も多くいます。現場勤務は大変な業務もありますが、楽しく仕事ができる職場だと思います。是非、林野庁へ！

発注者…東濃森林管理署

請負事業…中津恵那国有林ほか
保安林整備工事（本数調整伐ほか）東濃6

■事業の概要



三尾社長とのツーショット

付知土建 株式会社

熊田 貴則 くまだ たかのり
(二〇一四年入社)



受注してくださる民間事業体あつての国有林。そこで、国有林の植林や間伐などを行う森林・林業事業体からの投稿をもとに、頑張っている若者や女性技術者などを紹介していきます。

この工事は、恵那山の麓に点状する保安林の機能を健全に保つため、混み過ぎた樹木を間引く本数調整伐等約四九〇と、林道を修繕する敷砂利工二、七〇〇を施工するものです。本数調整伐等は、協力会社の応援も得ながら保残木が健全に生育するよう取り組んでいます。



協力会社と段取りを確認

■現場での役割、魅力

今後、現場代理人を務められるよう、この工事では現場代理人を補佐しています。また、弊社が昨年度に新規雇用した二名（現在『緑の雇用』制度の研修生）の指導員として、一緒に仕事をしながら

ら選木や伐採、作業の進め方などを指導しています。

昨年度までは、民有林の補助金事業を中心に仕事をしていましたが、今年度は、いくつかの国有林野事業に携わることとなりそうです。民有林とは違った広大なフィールドで技術を研鑽しつつ、ダイナミックな林業を体感できるのが国有林の魅力だと感じています。

■森林・林業の世界に

入ったきっかけ

私は、旅行会社からの転職組（Ｉターン）です。添乗員などの仕事を通じ、旅先で眼にする自然に惹かれて森林や林業への関心を強く持つようになった頃、たまたま付知町在住の方から今の会社を紹介されたのが林業に携わることになったきっかけです。会社は、建設業主体から「もっと地域の林業に眼を向けなければ」との気概で森林土木事業だけでなく、森林整備事業にも取り組んでいると聞き「この会社で働こう」と決めました。

■未来の担い手へのメッセージ

中津川市での「地元を元気にするプロジェクト」に弊社常務と参加する中で、林業や建設業は、もっと自分たちの職場を紹介する取組が必要と感じました。今年から弊社は、働き方改革の一環で完全週休二日制を導入しました。そのためには、儲かる林業・建設業への努力も必要ですし、若い人が入ってくれるための情報発信も大切です。甘い話ばかりではありませんが、仕事自体は楽しいです。昨年は林業就業を支援している「森のジョブステーションぎふ」を通じ、ＩＴ業界から一名が入社しました。「まず歩き出しましょう」待っています！



始業前のリスクアセスメント活動

発注者…飛騨森林管理署

事

■業務の概要
請負事業…青屋林業専用道新設工



大山土木 株式会社
細江 勇太
(二〇一六年入社)

シリーズ
「林業土木業界からの便り」

受注してくださる民間事業体あつても国有林。そこで、国有林の林道や治山工事などを行う林業土木事業体からの投稿をもとに、頑張っている若者や女性技術者などを紹介していきます。

本工事は、岐阜県高山市丹生川町乗鞍国有林一九九林班外において千四百十メートルの林業専用道を新設する工事です。

■現場での役割、魅力

本工事では、入社して三年目で、初めて自分でトランシットを使用して測量を行い、切土の切始め、盛土の盛始めの位置を計算し、その位置通りにバックホウのオペレータに作業してもらいました。

施工上でわからないことや、初めての事ばかりで不安も多くありましたが、現場の先輩方に手ほどきを受け、助けてもらいながら無事林業専用道を完成することができました。完成した時は、ほっとすると同時に、例え様のない達成感や喜びが溢れだし、とても思い出に残る現場になりました。

この仕事の一番の魅力は、造った物がたくさんの方々に利用され、壊れない限り、一生地図に残るところだと思っています。このことに誇りを持っています。



林業専用道新設工事の様子

■林業土木の仕事に

入ったきっかけ
建設業に入ったきっかけは、父の存在です。

中学一年生の夏休みに親の職場を実際に体験し、新聞を書くという課題が出されました。その時、父は歩道を作る工事をしていました。現場を見た私は、こんな急斜地にどうしたら歩道ができるのかとても興味が湧きました。

二か月後、父が工事していた歩道が完成し、現場を見た時、私はとても感動しました。何もない急斜地に綺麗な歩道が整備され、町

の子ども達、家族、住民の方々が笑顔で利用している姿を見て、私も将来地域の方々が安心して利用できる道路などの物造りをしたいと思い建設業界に入りました。

■未来の担い手へのメッセージ

私は、この三年間でいろいろな工事に携わらせていただき、すべての仕事に完成した時の達成感や思い出が残りました。また、造った道路は、地域のために利用されます。

建設業は高齢化と担い手不足が問題になっていますが、魅力を感じる人は、是非一緒に盛り上げていきましょう。



完成した林道（ドローン撮影）